

2016 年度活動報告 CJP 授業： インディペンデントスタディ 文法・読解 5

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

2016 年度秋学期のレベルが 4 あるいは 5 の学生を対象とし、1 週間に 3 コマ（1 コマ 90 分）の授業時間数で実施した。「上級前半レベルのさまざまな分野の文章を読んで理解し、それに関連する内容について説明したり意見を述べたりすることができるようになる」ことと「他者の考えを知り、理解を深めることができるようになる」ことがクラス目標として掲げられている。開講前のクラス内容としてはレベル 5 の既修者や春学期レベル 5 をスキップしたい学生も想定されていたが、実際は全員がレベル 5 を未習の学生でレベル 5 を春学期に目指す学生であった。開講前の学生へは「各自が学習を計画し、学習する。教師は個々の学生が学習上で疑問を持ったことに個別に答える」というような説明がなされているが、春学期の予習と思っていた学生もいた。学習者が選んだ教材は N 1 試験問題集や、語彙の問題集、漢字の問題集などで、読み物を加えたものは 1 名のみであった。なお、共通教材として『大学生になるための日本語 1』（ひつじ書房）が指定されている。

2. 授業内容

事前打ち合わせでは必須宿題は共通教材の 3 課毎の語彙（5 個）を使い、一つのテーマでミニ作文を書くことであった（計 3 回）。実際はそれに加えて、各課の語彙チェックと文を一つ書くことを宿題に加え、日々の地道な自宅学習を求めた。授業時間内では、終了前 10 分までは個別学習と個別質問で進行した。残り 10 分でその日の学生から出た質問などをもとに共通に知っておいたことを述べ、また、その時々で知っておいた方がいい情報を与えた。

3. 成果と今後の課題

学生はクラス内容を基本的に理解しており、個別学習には特に不満はなかった。このクラスは米国人 1 名、シンガポール人 1 名、韓国人 1 名だった。まだ語彙力が不足していたが、その点を各々が理解し学習していたのはよかった。学生からの質問は少なかった。「おみやげ」として、全体に共通な日本語のポイントや各種情報を与えたことは好評だった。なお、インディペンデントスタディというのであれば、次学期に使うテキストを宿題として使う必要があったのか。その点を含めて再検討が必要である。